寒川支部の紹介

支会長　三浦良文

支部は新しいさぬき市文化協会会員会費制度で登録された二十八団体、会員四百四十名から成り、地区文化の発展と文化団体の連携協調を目的としています。

新たに昨年度は「写真同好会」が、今年度は「神前水墨画クラブ」が誕生しました。日常の研鑽の場は、寒川公民館、神前体育館、門入工房などです。成果発表の場は、主に寒川公民館、二十一世紀館さんがわ、門入茶房で、文化祭、作品展、芸能発表を随時行なっております。地域の伝統として福祉医療施設の催し物に積極的に参加し、心の交流をはかっています。

平成十六年度主な定例行事

・支部総会

五月二十三日（日）

協賛　大正琴同好会演奏

・市民文化祭寒川祭中止

十月三十日・三十一日

地区市民全員で準備万端整えたが、直前の台風二十三号大災害で、中止の止むなきに至りました。

・一日視察研修

二月二十七日（日）

会員の一日視察研修会

大阪歴史博物館（歴史の勉強）

大阪市立美術館（日展の見学）

・第五回芸能発表会

三月十三日（日）

文化協会寒川支部各団体が参加する恒例の芸能発表会

支部の直面する課題2つ

一、会員の広域交流が活発になる中で、魅力ある文化団体として発展すること

さぬき市文化協会、統合すでに二年半、寒川の地理的条件もあり、望ましいことですが地区間の人の交流が盛んになりました。文化に国境は無い、団体が発展するには自らの魅力を高める努力をしなければなりません。

（別途、地域の伝統文化を守るには地元密着組織が必要であり、分けて考えるべきでしょうが……）

二、ボランティア活動と協力して地域行事を元気にすること

寒川公民館で進めているボランティア活動は緒についたばかりですが支部でも協力してゆこうとしています。実効をあげるには、意欲、動機づけ、組織力、リーダーシップなど多数の難問を解決しなければならないと考えています。

共に学びませんか

石田神前婦人会文化部

寒川支部　元木静子

石田、神前婦人会では婦人会活動の内、クラブ活動には、文化、芸能、スポーツと沢山の部があります。

これらは私たちの先輩の方々が培ってきた歴史あるものとして受け継いでまいりました。

しかし時代の流れと共に、色々な問題があり、試行錯誤を重ねております。そこでより多くの方が部活に参加できるように、さぬき市文化協会設立に合わせ、婦人会員以外の方でも文化協会会費を納入すれば婦人会員と一緒に学ぶことができるように考慮しました。

本年度文化協会に入部している部は次のとおりです。

▲石田婦人会書道部

▲生花部の作品展

石田婦人会では民踊クラブ、生花部、書道部、神前婦人会では現在は墨彩クラブです。

現在の会員数はまだまだ多いとは言えませんが、会員同志がいつもなごやかに、自分の可能性を信じ、新しい自分の発見を求めて頑張っています。

これからの人生を心豊かにおくるためにお誘い合わせて入会してみませんか、お待ちしています。

ボランティア活動

さぬき市寒川公民館館長　川崎　登

この「ボランティア活動」は平成十六年度香川県教育委員会のモデル公民館事業として行ったものです。事業の名称を「ボランティア活動による青少年健全育成」とし、町内の小学校五年生以上高等学校三年生以下の児童・生徒を公募して集まった三十六名で事業を展開しました。

具体的には、期間は平成十六年九月から十二月までの実施回数九回の計画です。内容は町内で主催の市民運動会や文化祭などのボランティア活動です。しかし、皆様ご存じのように、台風二十三号のために文化祭は中止になりました。そのため、途中、当初の計画の変更を余儀なくされました。

次に、主なボランティア活動を、ご紹介します。

九月十一日　発会式

・さぬき市少年育成センター山下　恵所長から激励の言葉を頂きました。

・香川大学生涯学習教育研究センター…清國祐二助教授から「ボランティア社会の実現に向けて～ボランティア　奉仕活動そして自己実現～」という演題で講演して頂きました。

十月十七日

・天中で開催された市民運動会の審判などの補助ボランティア活動を約七時間行いました。

十一月十三日

・台風二十三号の被害にあった施設「屋内ゲートボール場」の土砂の始末やガラス拭きの清掃ボランティアを行いました。このとき、藤井学園寒川高等学校の野球部の生徒たちも自主的に参加してくれました。

▲ボランティアのみなさん

十一月二十七日

・当初の計画は、「三重の滝登山」でした。しかし、現地が台風被害にあったために場所を「門入ダム公園」に変更しました。

・公民館から「門入ダム公園」